

30 当院におけるバスキュラーアクセス手術施行例の検討

(医) 輝山会記念病院腎センター

塩澤利一 熊谷武久 桜井俊夫 仁科裕之
 前本勝利 露久保辰夫 福岡秀樹
 原 修 土屋 隆

はじめに

当院では近年他施設からバスキュラーアクセス（以下VA）に関わるトラブルや造設目的で紹介される患者さんが紹介される機会が増加してきた。

そこで、今回は最近3年7ヶ月間におけるVA手術症例を自院の患者と紹介患者の差異について検討を行い若干の考察を加え報告した。

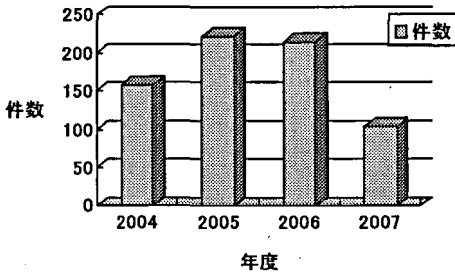
対象

2004年1月から2007年7月までの3年7ヶ月において当院で経験したVA手術700例を対象とし検討を行った。

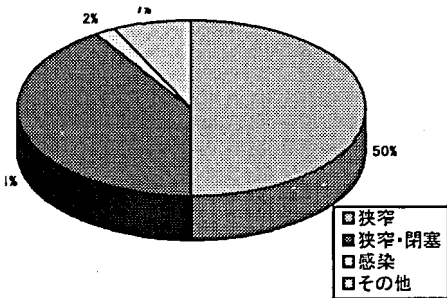
結果

2004年から2007年7月までのVA手術の件数を自院と紹介によるものを年度別に検討したところ、紹介によるものが年平均4.8%であった。

(図1) 年度別VA手術件数

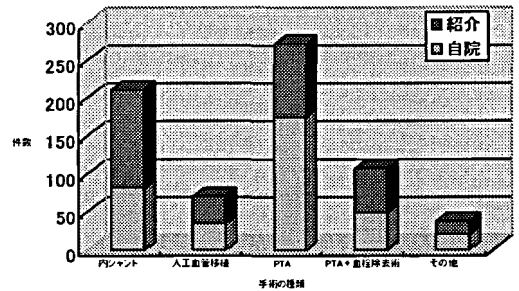


(図2) VAトラブル症例内訳



VAトラブルによる手術例は502例あり、その原因としては、狭窄や狭窄に閉塞を伴うものが全体の約90%を占めていた。(図2)

(図3) VA手術症例の内訳

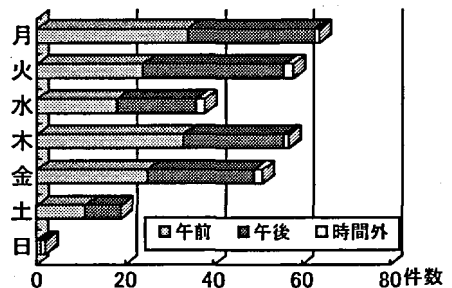


VA手術症例の内訳を自院と紹介患者別に示した。(図3)

内シャント造設211件の内60%は透析導入に際しての造設で、残り40%は狭窄、閉塞等のトラブルに伴う再造設である。PTAについては64%が自院の患者に行われた。また、人工血管移植についてはこれらの手術でもトラブルが回避出来なかった場合に適応となることが多かった。

当院ではVAトラブルについては常時24時間体制で対応している。そこで、紹介患者症例において来院された曜日、時間帯について検索した。(図4) 曜日については週初めがやや多くなっているものの1週間を通して紹介されている。また、時間帯についても午前・午後とも同程度に紹介されてきている。

(図4) 時間帯別・曜日別紹介件数

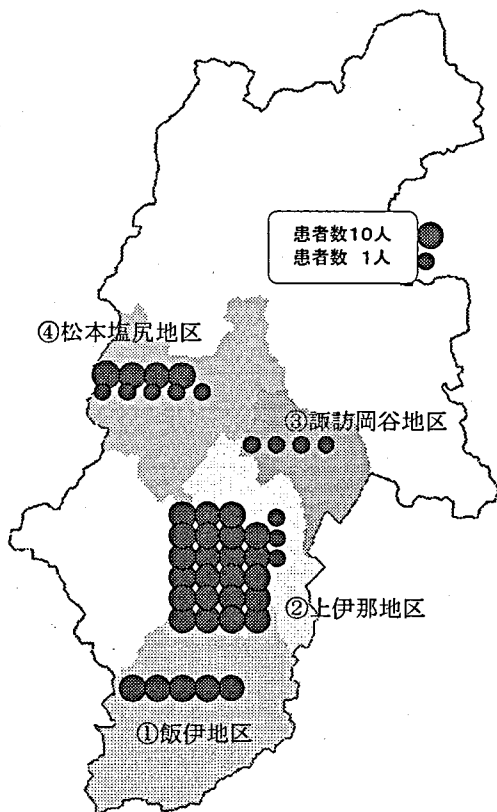
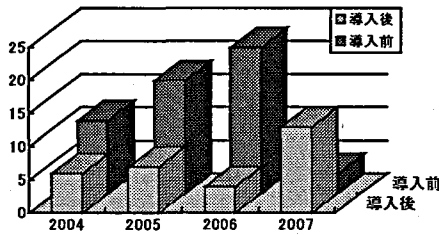


別冊請求先：塩澤 利一 〒395-0813
 飯田市毛賀 1707 番地 (医) 輝山会記念病院腎センター

紹介された患者さんの中で外来としてVA手術が行われた症例は27%で、おもには透析導入前の造設と事前にVAトラブルの状況が把握できていた症例であった。

また、透析導入に際しての内シャント造設では06年までは造設してからの導入が大半であったものが07年に入ってから導入後での内シャント造設が多くなっている。

(図5) 導入に際しての紹介VA手術の推移



(図6) 地域別紹介患者数

次に、紹介症例を地域別に検討したところ、南信地区のほぼ全域と中信地区の一部から来院されているが、上伊那地区からが全体の73%と最も多く、次いで飯地区の15%となっている。(図6)

考察

VA手術700例について自院および紹介患者別に手術内容等の検討を行った。

PTA実施数については全体の64%が自院の患者で行われている。当院では透析開始前でのVAの観察と血管造影を見てからの穿刺を習慣づけている。¹⁾

そのためにも定期的VA造影が重要となってくる。これにより早期に異常を発見することもでき、直ちに対処ができています。また、狭窄等を頻繁に惹起する症例では、PTAへ迅速に対応できていることがこの数字につながっていると考えられる。²⁾

紹介された症例のうち73%が入院でVA手術が施行された。主には前日或いは、当日のトラブルにより来院しており、そのトラブル処置が困難な症例が多くみられること、また内シャント手術については造設よりも透析導入が先行している症例や造設に続いて導入するケースが多く、必然的に入院が余儀なくされている。

当院ではバスキュラーアクセスセンターの開設により24時間365日、何時でも紹介患者の受け入れ体制をとっている。

常に患者さんの立場にたってみると一刻も早く対処することが最優先であると考え。そのために担当の医師のみならず、透析のスタッフのどちらかでも依頼を受けている。さらに医療機関によってはVAに異常を感じたら当院へ連絡をし、受診するようとの指示を出されている主治医もおり、医師不在のときには看護師をはじめあらかじめスタッフの電話連絡により緊急症例に対応している。

VAの確保は絶えず「古くて新しい問題」の一つである。VA確保を最優先する観点からは、各施設間およびそのスタッフ間との連携を構築することに必要性を感じている。

これを契機として各施設の現状をお互いに開示して情報を共有することにより、この地域において腎不全患者が必要とするVA確保対策、上皮小体全摘術をはじめとする腎不全外科的処置、さらに腎移植に至るまで、適切な医療の選択・提供が可能な体制、ネットワークの構築が必要と考えられる。

まとめ

当院において実施されたVA手術700例について自院および紹介患者別に検討した。紹介患者では比較的緊急性を要する症例が目立っている。今後、腎不全患者の必要とするVA確保を各施設間およびスタッフ間の連携を一層密にしていかなければならないと感じた。

引用・参考文献

- 1) 澤田敏子ほか ブラッドアクセスを守るコツ
透析ケア 2005 Vol11 No7 726-7
- 2) 赤塚東司雄ほか 透析ナースのための病態生理
30分教室 透析ケア 2007 Vol13 No5 505-9